



JR東労組 (東日本旅客鉄道労働組合)
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-24-1
 東日本旅客鉄道株式会社 代々木総合事務所 5階
 電話 03-5315-0941
 発行人 佐藤英樹 編集人 湯ノ目亜矢子
 毎月1回20日発行/一部20円
 (組合員の購読料は、組合費に含む)

2022年1月20日
 第732号



JR東労組ホームページは
 ←こちらからアクセス
<http://www.jreu.or.jp/>

18春闘・21春闘の敗北総括を基礎に、健全な労使関係構築のもと施策に立ち向かい、組織の強化・拡大の実践を通じて飛躍しよう!



2022旗開き

1月6日、目黒さつきビルにおいて「2022旗開き」を開催しました。
 年頭所感では、18春闘から現在までの労使関係や組織再編、22春闘に向けた課題を提起しました。
 その後、各地本を代表して4つの地本から決意表明があり、不当労働行為など理不尽なことに声を上げる必要性や、組織拡大の教訓、労働者には「やりがい」ではなく「賃上げ」で応えるよう求めていく決意が述べられました。
 そして本部より、22春闘での賃上げを求める根拠や総合労働条件改善に向けた職場議論の必要性、労働協約の重要性について問題提起を行い、当面するたたかいの方向性について確認しました。

18春闘・21春闘の敗北総括を基礎に、組織拡大の実践を通じて、大きく飛躍しよう!

年頭所感 中央執行委員長 佐藤英樹



18春闘を主体的に捉え返し、組合員の利益を守り抜く!

2022年は組織拡大で大きく飛躍する年にするため、18春闘敗北を改めて総括し、新たな地平を切り拓いていきたいと思います。
 18春闘で労働協約第70条(団体交渉を経なければ争議行為を行わない)を反故にし、団体交渉が終了する前にストライキの通告を行い、これにより会社から労使共同宣言を破棄されました。振り返ると、2016年の定期大会に参加した富田社長は、「人口や生産年齢人口減少について急激な技術革新が進む中、ギアチェンジする必要がある」と訴え、また翌年の大会では、10年後を見据え、必要なら効率化施策について労使で時間軸を意識し

議論経過や議事録を無きものとする姿勢は許さない!

問題の1点目に「現業機関における柔軟な働き方の実現について」施策は、組合員の働く環境が大きく変化する施策です。標準数の示し方について、再三提案を行うことを求めましたが、会社は説明のみで推し進めようとしていました。そのため、申18号「現業機関における標準数の見直しに関する緊急申し入れ」を行いました。標準数の考え方については過去に団体交渉を行い確認しています。35年積み上げた歴史と議論経過、労働協約における確認事項があることを組合員一人ひとりが覚悟することが重要です。
 2点目に昨年11月、会社から「労使間の取扱いに関する協約」の確認メモの解約について「が手交されました。会社は、「他労組との中立保持の観点」から、維持するのは難しいと主張しています。この問題点は①事実経過が歪められていること②中立保持の観点

2022年は何ごとにおいても組織拡大を実現しよう!

今年こそ組織拡大に向け、一人一人が決意を固め実践していきましょう。過半数代表選の勝利や22春闘の勝利を勝ち取り、自信と確

22春闘勝利!

「新たな施策に対する5本柱」を基礎に、各種施策に立ち向かおう!

問題提起 中央執行委員長 高橋孝一



22春闘はJR総連と共にたたかおう!

22春闘は、21春闘敗北の総括から期末手当のたたかいの教訓を踏まえ、JR総連と共に「統一要求統一闘争」を担い、「定期昇給(昇給係数4)の完全実施」と「ベア獲得」を前提に、堂々と賃上げを要求します。具体的方針は、2月10日開催の第48回定期中央委員会で決定します。
 日本の情勢やJR東日本の経営状況も踏まえ、私たちが賃上げを求める根拠を改めて明確にしなければなりません。会社は、労働者が働かなければ収益を上げることが出来ません。ですが、労働者が働いて得た収益が労働者に返っていません。赤字によりJR東日本の純資産は目減り

「総合労働条件改善のたたかい」を実現しよう!

21春闘では、JR総連傘下すべての単組がベアゼロでした。しかし、春闘と同時に各単組が制度改善や職場環境改善などを要求し、多くの成果を生み出しました。そのたたかいに学び、22春闘に向けて「総合労働条件改善のたたかい」を昨秋提起し、1800件を超える意見を集約しました。今後は内容を整理し、会社に申し入れを行い、22春闘と結果した取り組みをめざします。

施策に対するたたかいはつくり出そう!

12月15日、会社から「変革2027」の実現に向けた組織の再編について「並びに」柔軟な働き方と多様な活躍の実現に向けた制度改正等について」の提案を受けました。
 私たちは①鉄道の安全を守り抜く視点②「健康とゆとり」・労働条件を守る視点で「新たな施策に対する5本柱」を掲げ、たたかいはつくり出していきます。将来の職場と仕事、生活を見据えたたたかいはつくり出し、全組合員とともに、組織強化・拡大を実現しましょう。



1月16日、南太平洋の島国トンガ沖で発生した海底火山の大規模噴火により、気象庁は日本各地に津波警報や注意報を発令した。日本から約8000km離れた噴火が、世界各国に影響を及ぼしていることに対し、改めて自然災害の脅威を感じた▼警報を繰り返し報道するニュースを見て、2011年に発生した東日本大震災を思い出す▼当時は組合員の安否確認をはじめ、共済活動や被災地でのボランティア活動等を実施した。そして、全組合員が震災復興に向けて尽力し、支え合ってきた▼また花のプレゼント活動などを通じて、JR東労組の原点であるヒューマニズムに立脚した運動を展開した▼その他、防災士の育成等、防災・減災の活動を担い、自然災害に向き合ってきた▼年々激甚化する自然災害に対し、私たちは備えることが重要だ。そして困っている仲間の手を差し伸べることが必要だ▼コロナ禍により、人と直接会う機会が減少し、コミュニケーションが希薄になりつつあると感じる▼自然災害等、互いに助け合いが必要だ。私たちの雇用や利益を守るためにも、今年こそJR東労組への決意を呼びかけよう!
 (N・H)